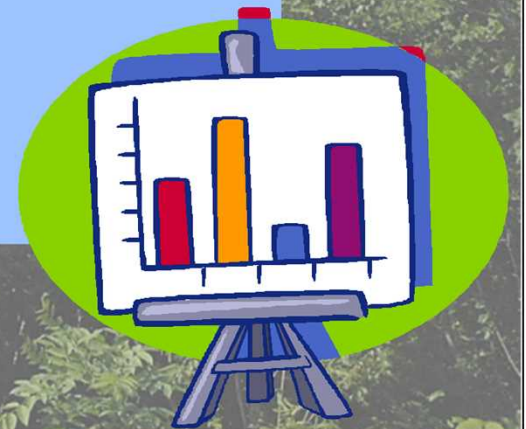


くしろ自然再生解説員 解説メニュー

- ・展望台から見える景色
- ・釧路湿原の特徴
- ・釧路湿原の自然再生



展望台から見える夏の湿原



展望台から見える冬の湿原



原始の姿をとどめる川

～シラルトロエトロ川から見たシラルトロ湖～



阿寒富士

雌阿寒岳

雄阿寒岳

宮島岬

キラコタン岬



阿寒富士

雌阿寒岳

雄阿寒岳

細岡展望台から宮島岬まで
直線距離で約6km

細岡展望台からキラコタン岬まで
直線距離で約5km

細岡展望台から釧路川まで
直線距離で約600m

釧網線



釧路湿原に沈む夕日

Sunset on a Kushiro wetland



細岡ビジターズラウンジ



館内には湿原風景や花々の写真が飾られ、
お土産を買うこともできますので、
是非、お立ち寄り下さい！

入館料 無料
車いす対応トイレ 有り



くしろ湿原 / ロッコ号



運転区間：釧網本線 釧路～塘路間
運行期間：6月～10月頃

* 運転区間、運行期間は変更する場合があります

SL冬の湿原号



運転区間：釧網本線 釧路～標茶
運行期間：1月～2月頃

*** 運転区間、運行期間は変更する場合があります**

釧路湿原の特徴



北海道のラムサール条約登録湿地



北海道のラムサール条約登録湿地： 13カ所

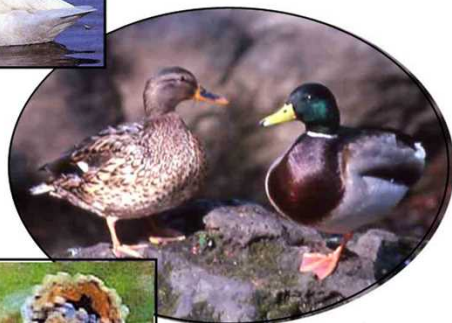
日本のラムサール条約登録湿地
53カ所

渡り鳥にとって、とても大切な場所

世界中を移動する
渡り鳥



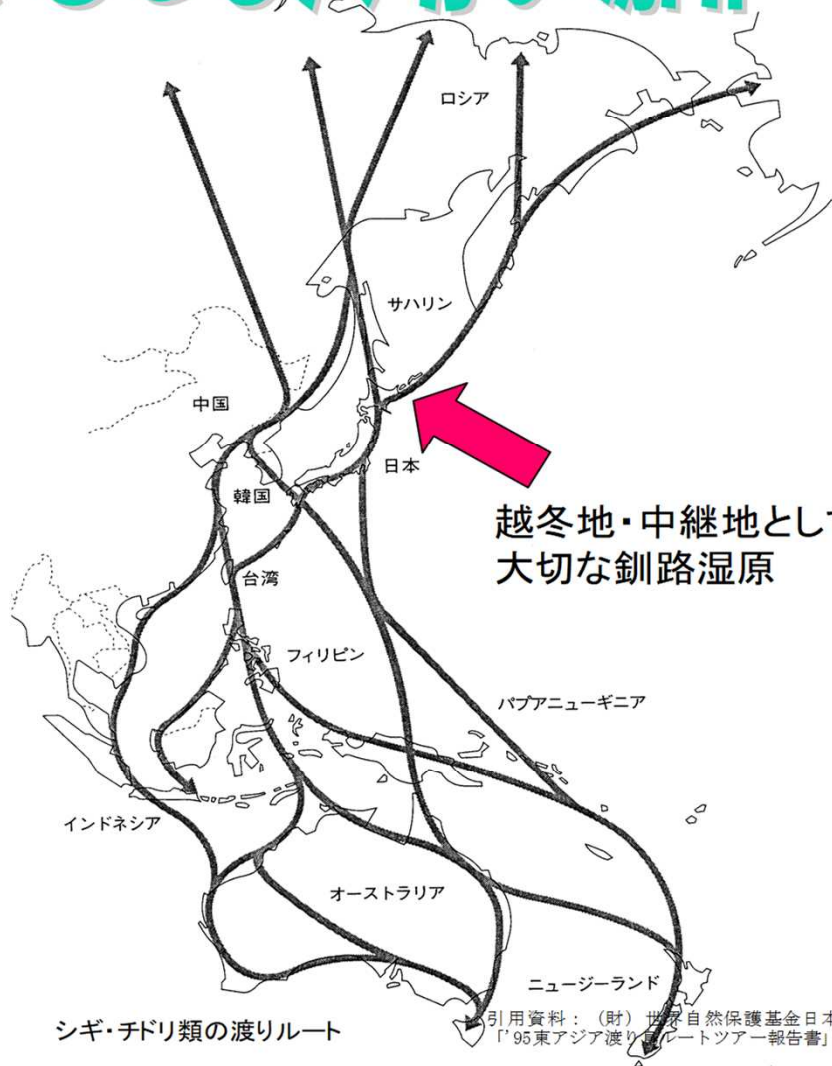
オオハクチョウ



マガモ



オオジシギ(オーストラリアから)



シギ・チドリ類の渡りルート

引用資料：(財)世界自然保護基金日本委員会 (1995)
「'95東アジア渡り鳥ルートツアー報告書」

釧路湿原国立公園

Kushiro marshland national park

釧路湿原野国立公園

쿠시로 다습 초원 국립공원

1987年(昭和62年)に
国内28番目に国立公園に指定
された日本最大の湿原です。



谷地坊主



ホザキシモツケ



イトウ



ミツガシワ



秋の湿原



クロユリ



タンチョウ



クシロハナシノブ



キタサンショウウオ

「湿原」だけで指定された唯一の国立公園

- ・国内には34の国立公園
- ・「湿原」が特徴なのは4公園
- ・「湿原」だけで指定されたのは釧路湿原のみ

(2018年3月31日現在)

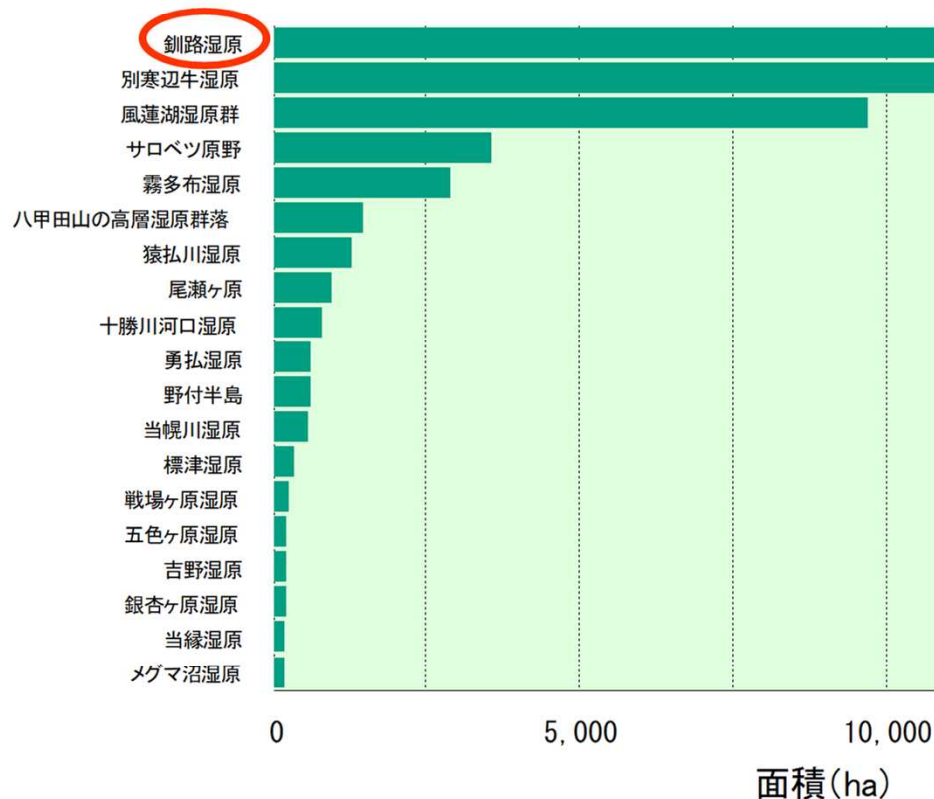
「湿原」が特徴な国立公園

国立公園名	景観の特徴			
	火山	湿原	湖沼	海岸
利尻礼文サロベツ				
釧路湿原				
日光				
尾瀬				



日本でいちばん大きな湿原

日本における代表的な湿原の面積



- ・北海道には大きな湿原が多い(1～5位)
- ・釧路湿原は日本最大
- ・車で一周3時間以上。

釧路湿原のデータ



○日本で最も広い湿原
釧路市、釧路町、標茶町
鶴居村 1 市 2 町 1 村に跨がる

○釧路湿原面積
約25,800ha

☆山手線の線路に囲まれた
面積の4個分に相当
山手線内側面積 約6,300ha

○東西最大幅 25km
南北 36km

(出典: 新版釧路湿原: 釧路新書2008年)

釧路湿原のデータ



○日本で最も広い湿原
釧路市、釧路町、標茶町
鶴居村 1市2町1村に跨がる

○釧路湿原面積
約25,800ha

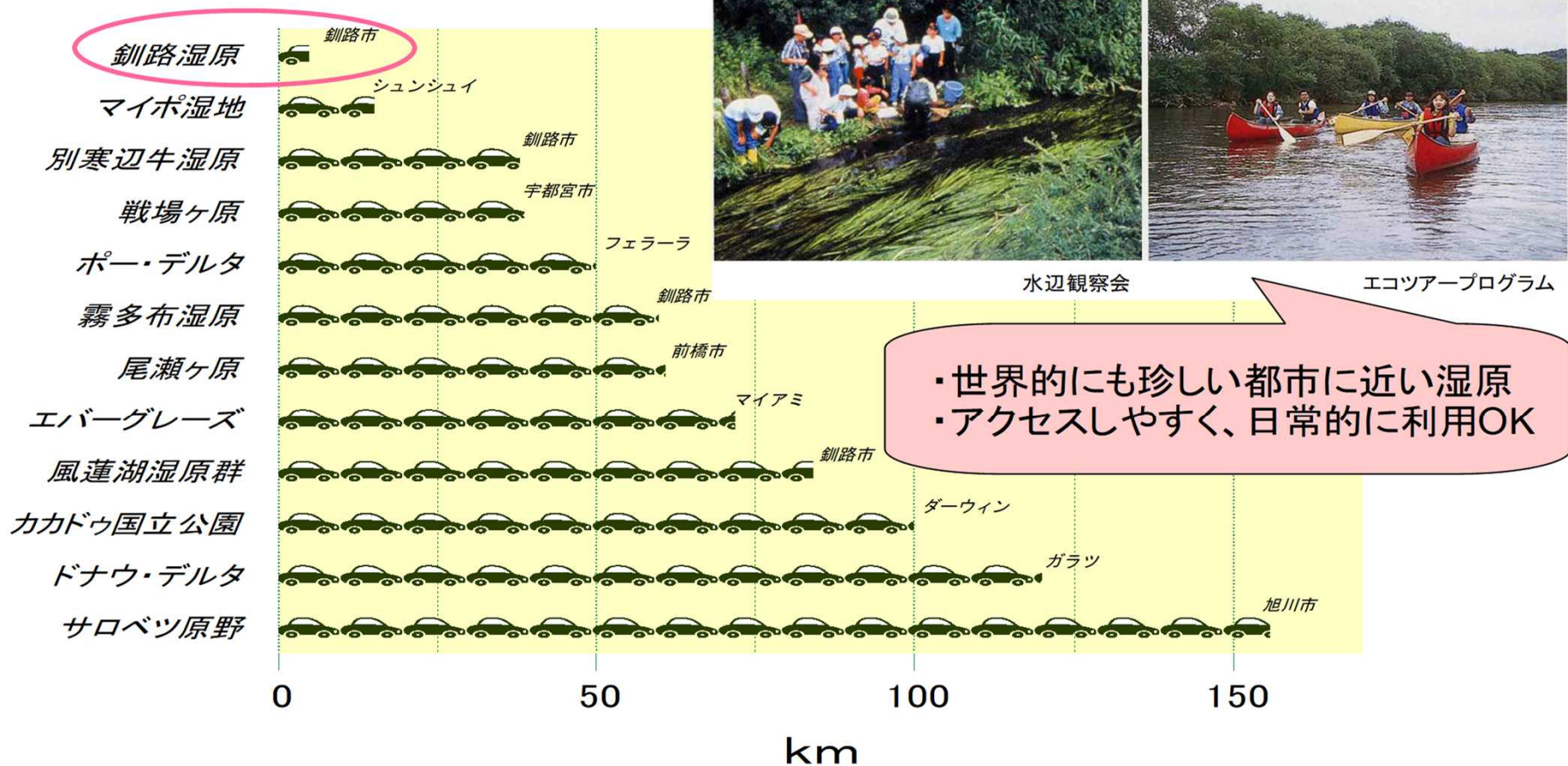
☆大阪市とほぼ同じ面積
(約22,300ha)

○東西最大幅 25km
南北 36km

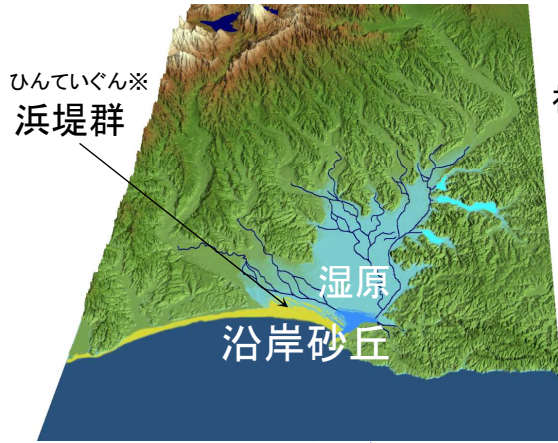
(出典: 新版釧路湿原: 釧路新書2008年)

世界でも珍しい 都市に近い湿原

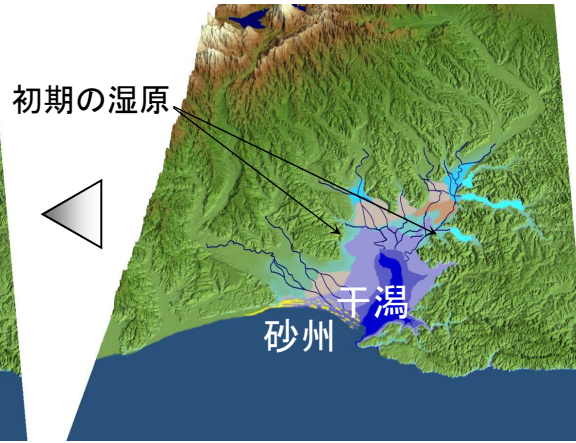
図 湿地と都市との距離



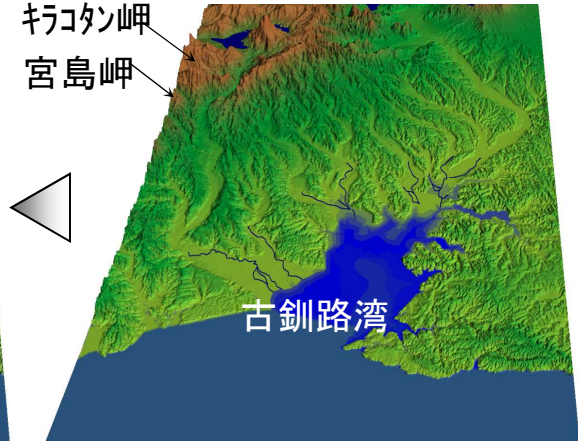
釧路湿原の成り立ち



(3,000年前)



(5,000～4,000年前)



(7,000～6,000年前)

※ 浜堤：砂浜の海岸線に沿って形成される砂の高まり

現代へ ← アイヌ時代 縄文・続縄文時代 先土器時代

● 開拓時代
屯田兵や移住士族による農地開拓が始まり、人口が劇的に増える。

● 7000年前
東北地方やサハリン・沿岸州との交易を通じ、擦文文化と呼ばれる時代が続く。

● 12000年前
先住民による狩猟・採集生活を中心とする続縄文文化が発達する。

● 3000年前
ほぼ現在の湿原が完成し、低地に塘路湖やシラルトロ湖などの海跡湖ができる。

● 4000年前
再び気温が下がり始めて陸地が現れるが、堆積した土砂や泥炭によって湿原ができ始める。

● 6000年前
海面上昇がピークを迎え、現在の釧路湿原のほとんどが海水に覆われて「古釧路湾」が誕生。

● 10000年前
氷河が溶けて海面が上昇し、しだいに陸地の奥まで海水が入り込み始める。

● 20000年前
氷河期のため海面が下がり、広大な陸地が広がるが、この頃を境に気温が上昇を始める。

形成の歴史

北海道史年表 釧路湿原の歩み 日本史年表

平成 昭和 大正 明治 江戸時代 安土桃山 室町 鎌倉 平安 奈良 飛鳥 古墳 弥生時代 縄文時代 先土器時代

平成28年8月の大雨による釧路湿原の様子

平常時

平成27年7月8日
釧路川河川水位 EL=1.62
[岩保木水位観測所]

釧路川

釧路湿原は、ダムのような遊水効果により下流の市街地へ水が急激に流れ込むのを防いでいます。

平常時と洪水時では、湿原の様子がこんなに違います！！

洪水時

細岡展望台

撮影位置図

撮影方向

細岡展望台

凡例
釧路湿原域内川区域
公園区域
ラムサール条約登録湿地

平成28年8月24日

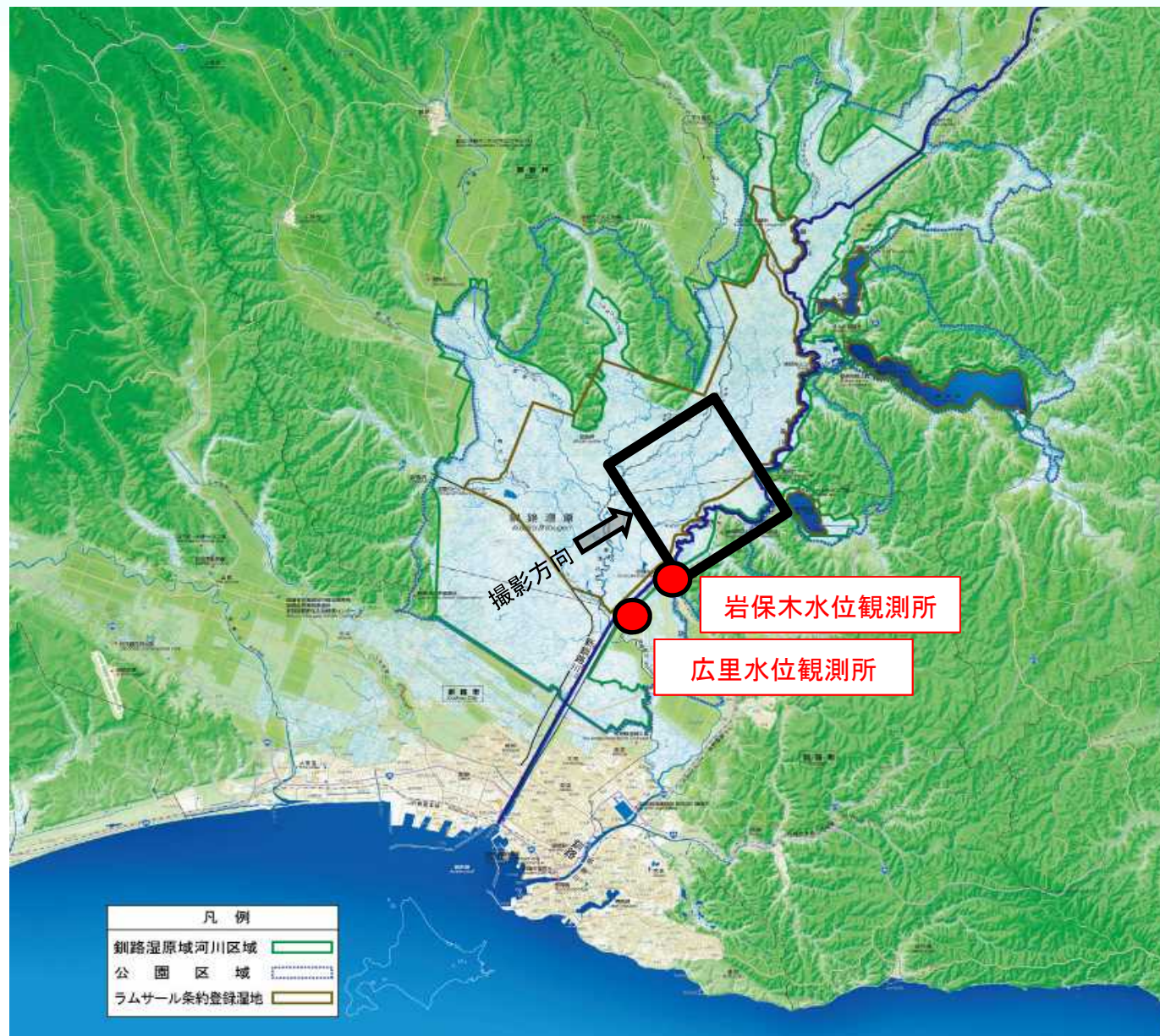
釧路川河川水位 EL=4.55 [岩保木水位観測所]

釧路川



国土交通省北海道開発局釧路開発建設部

平成28年8月出水について 釧路湿原の様子



平成28年8月出水について 釧路湿原の様子

平常時



平成27年7月8日

釧路川河川水位 EL=1.62 [岩保木水位観測所]

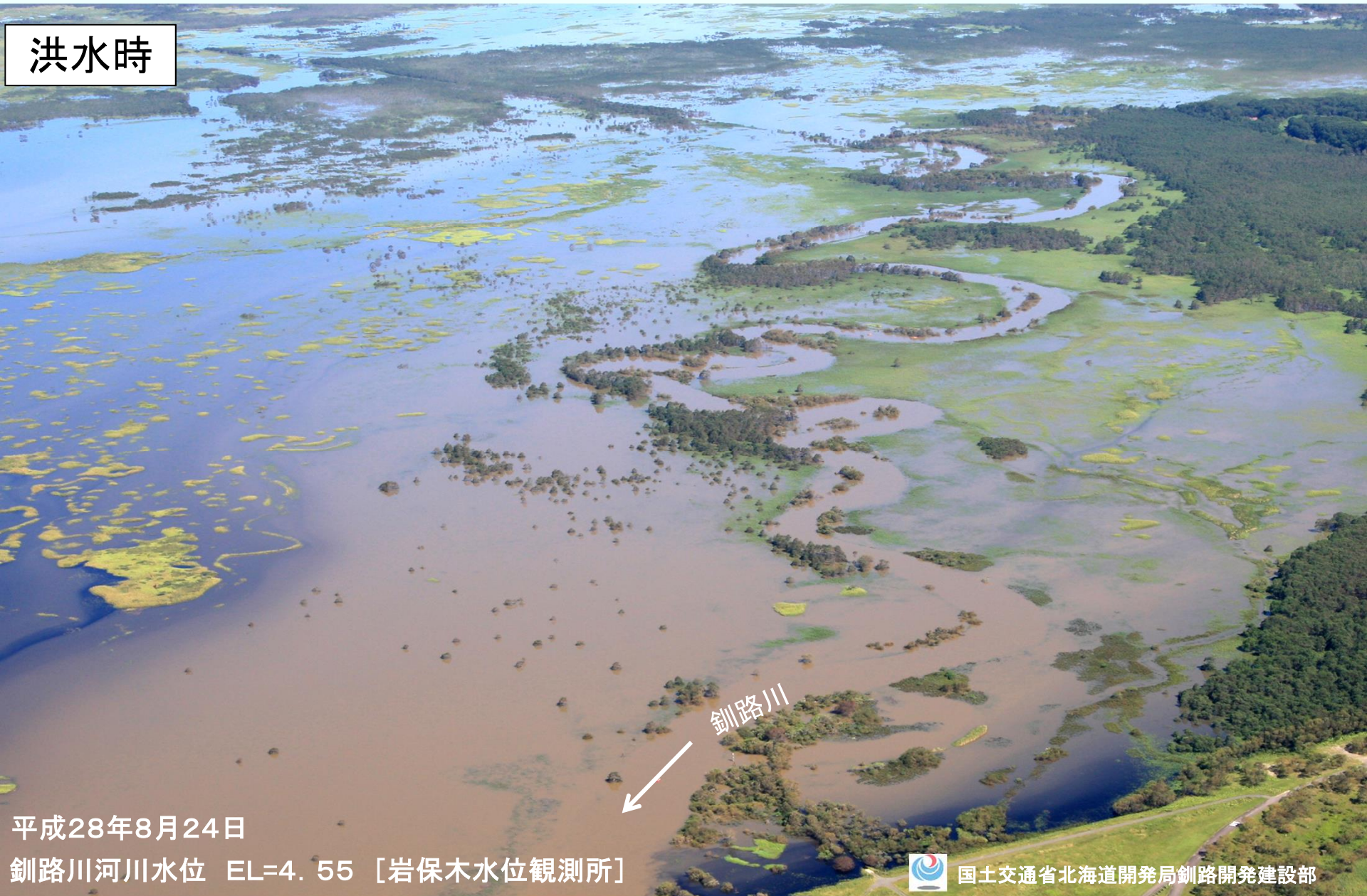


国土交通省北海道開発局釧路開発建設部

平成28年8月出水について 釧路湿原の様子

※本資料の数値は速報値であるため、今後の調査で変更となる場合があります。

洪水時



平成28年8月24日

釧路川河川水位 EL=4.55 [岩保木水位観測所]



国土交通省北海道開発局釧路開発建設部

釧路湿原の自然再生



1972年以降、湿原の開発が加速

- ・湿原は、役に立たない不毛の土地
- ・土地利用をはばむ厄介者
- ・昭和40年代 列島改造論で湿原の開発が進む



改修により直線化された河川



周辺丘陵地の土砂取場

湿原の面積が激減

The area of the damp plain decreases sharply

湿原野的面积锐减

다습 초원의 면적이 격감

70年で約30%減少！

A decrease of about 30% every 70 years

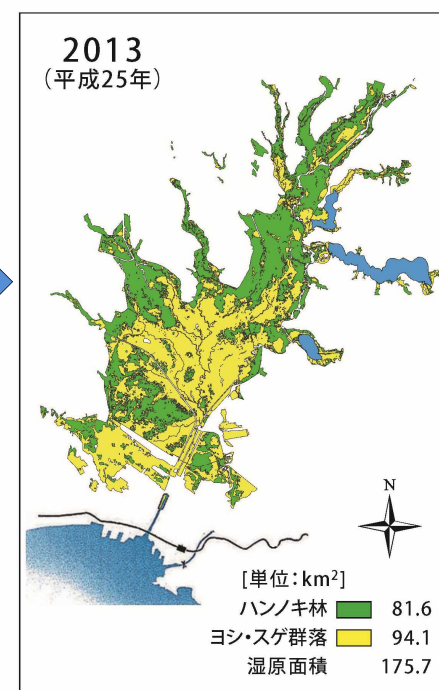
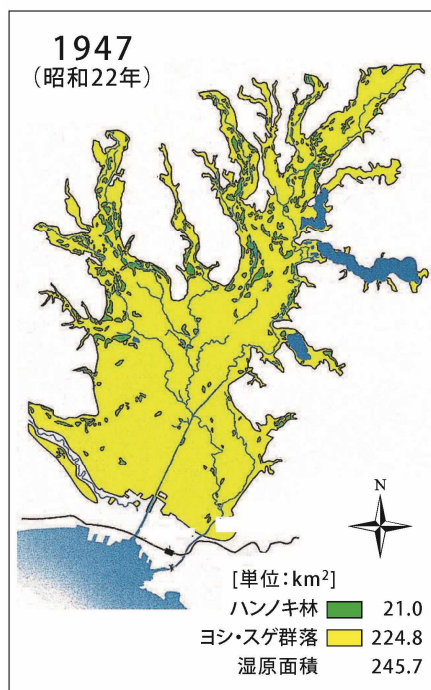
70年约30%减少

70년에 약 30% 감소

かなり小さく
なったなあ



ヤチボウズ



湿原が乾燥して自然が変化

ハン/キ林の増加

ヨシ群落



釧路湿原の急激な変化の原因

流域の経済活動の拡大（農地・宅地の開発、河川の直線化、湿原周辺の森林伐採など）が原因

原因

農地・宅地の開発など

農地・宅地の開発のための
河川の直線化・ショートカットなど

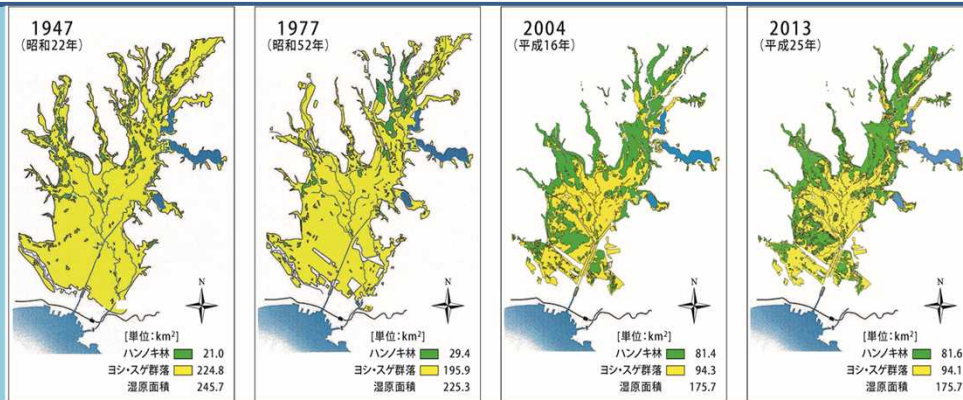
周辺の森林伐採など

【量的変化】
湿原の直接的な改革が進行

冠水頻度の減少、地下水位の低下、土砂流入量の増加

【質的变化】乾燥化に伴うハンノキの侵入

湿原植生の変遷



【釧路湿原の急激な変化】

●質的变化 : 流域開発の拡大に伴い土砂生産・流出量が増加し、湿原への土砂堆積が進行して湿原植生が変化

ハンノキ林＝乾燥化の指標

→ ハンノキはヨシ類より乾燥した場所に生育

●量的変化 : 流域の経済活動の拡大に伴い湿原が農地・宅地開発されるなど、湿原の直接的な改革が進行して湿原面積が減少

現状・現象

	1947年	1977年	2004年	2013年	変化
質的变化	ハンノキ林 20km ²	約30km ²	約80km ²	約80km ²	約4倍増
量的変化	湿原面積 約250km ²	約230km ²	約180km ²	約180km ²	約3割減

「全体構想策定(2005年)以降の取組開始後は、湿原・ハンノキ林の面積はほぼ維持されている」

タンチョウ・キタサンショウウオ等の生息環境の悪化

- タンチョウ：湿原内での樹林地の拡大により逃避行動が阻害されるなど危険が増大
- キタサンショウウオ：水環境の悪化等による生息・繁殖環境の悪化

湿原としての風景・景観の悪化



本来の湿原には見られない直線河道

ハンノキ林に覆われた本来と異なる景観

希少な野生生物などの減少

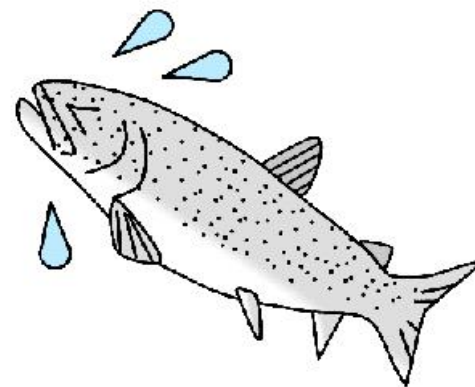


イトウの釣り捕獲
個体数の減少

希少な野生生物への影響



- ・日本最大の淡水魚 **イトウ**
- ・北海道だけに天然のものが生息する「幻の魚」で、つり人の憧れ
- ・釧路湿原では絶滅寸前



自然再生がはじまる - 1980年以前の環境へ

To environment of before 1980 when natural reproduction begins

到自然再生开始的 1980年以前的环境
자연 재생이 시작하는 1980년 이전의 환경에



釧路湿原の河川環境保全のための具体的施策イメージ

Concrete measure image for river environmental preservation of Kushiro marshland

为了钏路湿原野的河川保护环境的具体的对策印象
쿠시로 다습 초원의 하천 환경보전을 위한 구체적 시책 이미지

釧路湿原における自然再生の主な取り組み

○湿原へ流入する土砂や栄養塩などの負荷を軽減するとともに、湿原や湿原とつながりをもつ河川・森林などの生物生息生育環境を保全・再生するなどし、釧路湿原の自然再生を図る。

○行政、NPO、地域住民が連携し、自然再生事業実施計画を策定し10事業が実施中。



茅沼地区で蛇行河川を復元しました

The mosquito net bog district old river restoration was done.

茅沼地区旧河恢复完成了

茅沼지역의 오래된 강 복원을 실시했습니다

復元前

Before restoration

在恢复之前

복구 전



旧川に堆積していた泥を掘削



掘削完了後の河道状況



沈木を一度よけ、土砂を掘削した後、また沈木を元に戻しました。

(沈木は、魚の隠れ場所になります)

旧川の底に溜まった泥などを取り除くために、旧川の水抜きを行います

旧川の水抜き



魚類



魚類の捕獲



捕獲魚の放流



植物



移植株の採取



移植



復元後

After recovery

复元后
회복 후



釧路川（茅沼地区）の旧河復元は、平成18年度に工事に着手し、平成22年度に完了しました。

茅沼地区旧川復元事業の概要

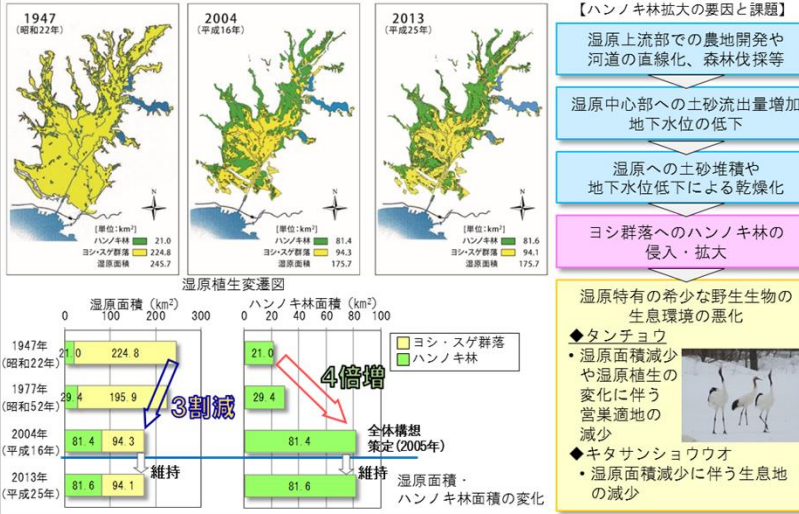
①事業対象区域

釧路川河口から32km付近の釧路川茅沼地区(約2km区間)を対象区域とした。



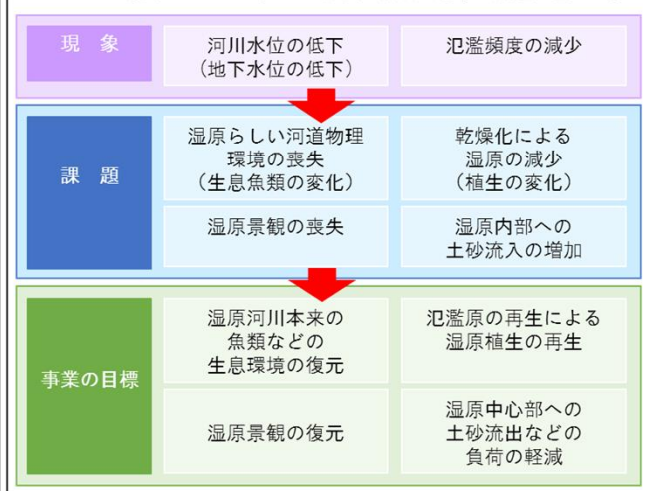
②釧路湿原の現状と課題

・釧路湿原は農地の拡大や市街化に伴い面積が減少しており、過去約60年間で、湿原面積の約3割が消失し、ハンノキ林の面積が約4倍に増加した。



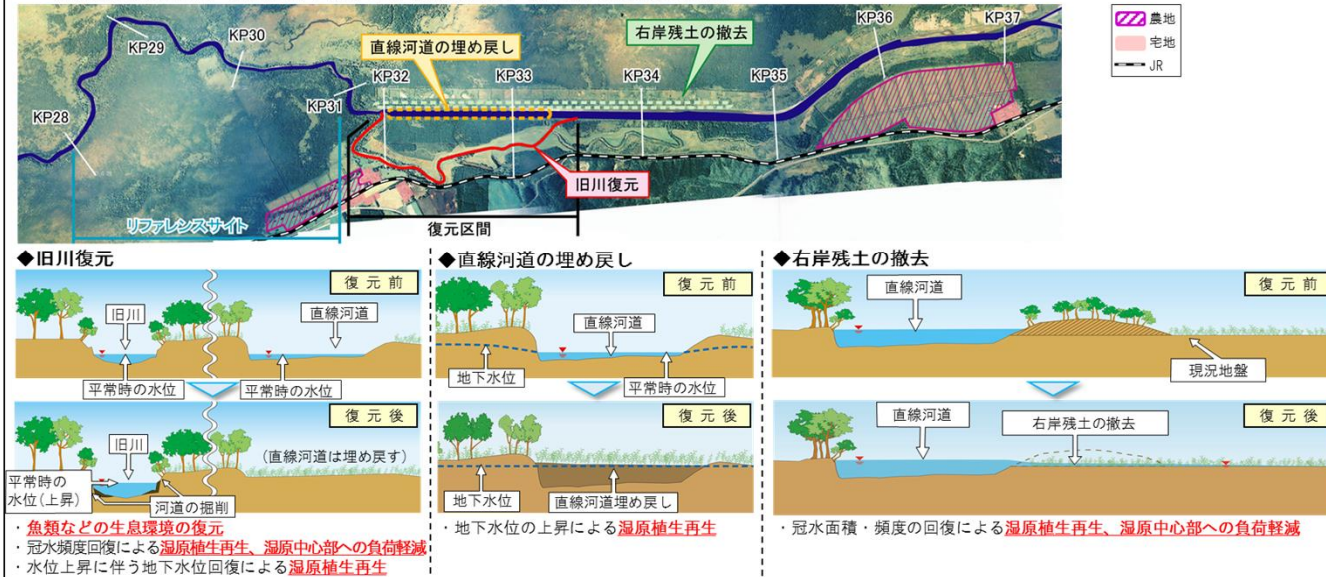
③茅沼地区の課題と事業の目標

・地域の開発と発展要請と相まって、釧路川茅沼地区においても1980年に河道が直線化され、旧川周辺は乾燥化の進捗に伴い、牧草地として土地利用されてきた。その結果、下図の現象や課題を生じた。



④事業の実施内容と期待される効果

・事業の実施内容と、実施により期待される効果について、以下のとおり示す。



⑥事業のスケジュール

・茅沼地区旧川復元事業のスケジュールについて示す。



⑦現在までの評価

・事業の効果について2017年度時点の評価は以下のとおり。

目標	目標達成の評価	評価
魚類などの生息環境の復元	目標達成	・魚類が生息する場が多様になり、生息環境に応じた魚種が生息するようになった。
湿原植生の再生	湿原植生は変化途中	・地下水位上昇、冠水頻度増加が確認され、湿原植生面積は、事業実施前から約30ha回復した。
湿原景観の復元	概ね達成	・旧川復元区間・下流部はリファレンスに近い景観となった。 ・上流側は、直線河道に近い景観となっている。
湿原中心部への負荷の軽減	達成	・実施計画で設定した軽減効果3割と比較すると、十分に効果を発揮している。

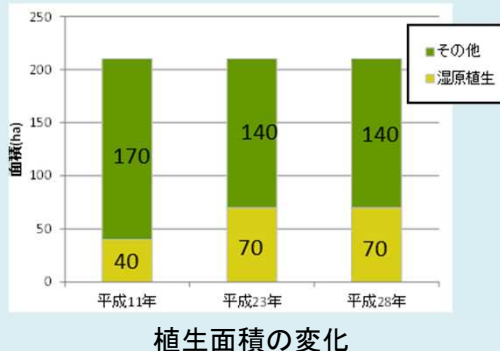
茅沼地区で蛇行河川を復元した効果

茅沼で行った蛇行河川の復元（直線にした川を元々の蛇行した川に戻す）により、以下のような効果が確認されました。
（H29までの調査結果による）

【魚類】魚の種類や数が増えました



【植生】湿原の植生面積が増えました



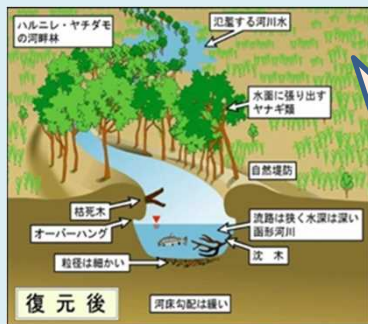
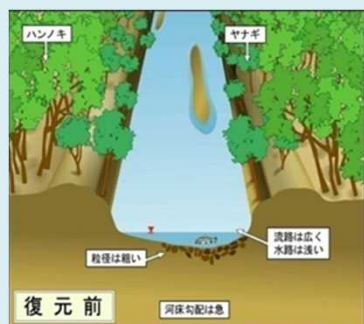
復元前

復元後

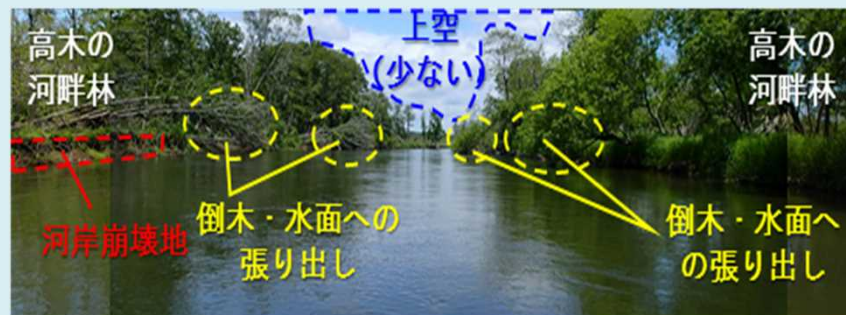


復元前と復元後の
釧路川の様子

【湿原の景観】目標とする景観に近づいてきました



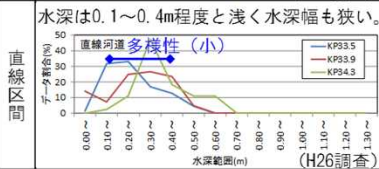
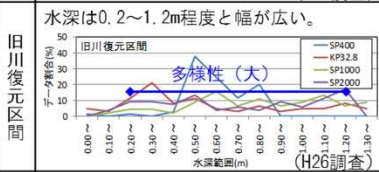
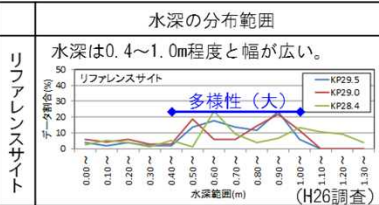
目標とする景観



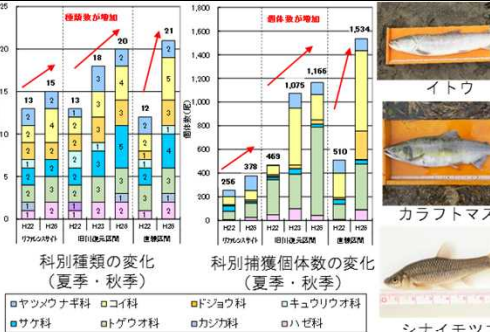
復元後の景観

平成29年までに確認された事業効果

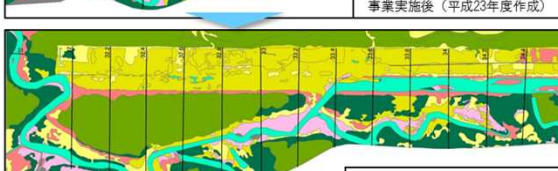
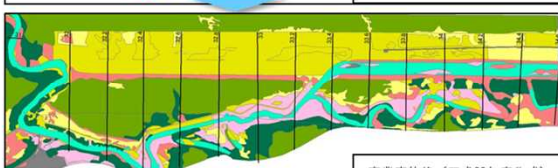
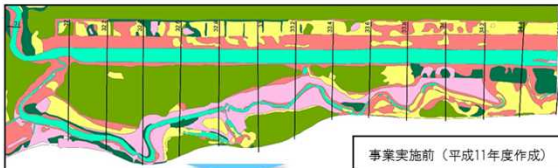
① 湿原河川本来の魚類などの生息環境の復元



- 水深や流速は、直線区間に比べ旧川復元区間のほうが分布範囲が広く多様性が高くなり、リファレンスサイトの環境に近づいた。
- 旧川の生息魚類は、旧川復元後において、魚種及び個体数が増加した。
- 遊泳型・底生型・掘潜型の魚類が複数確認され、旧川復元区間では様々な魚類が生息できる多様な環境が形成された。

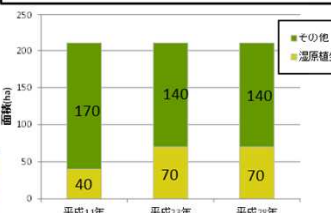


② 氾濫原の再生による湿原植生の再生



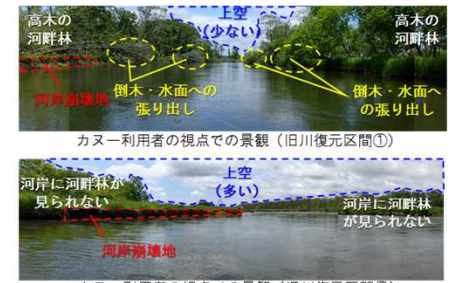
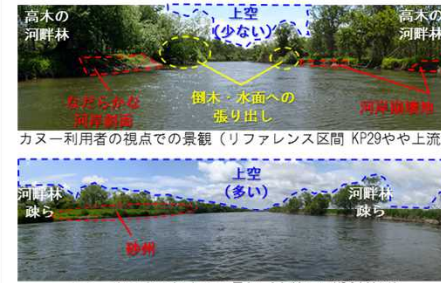
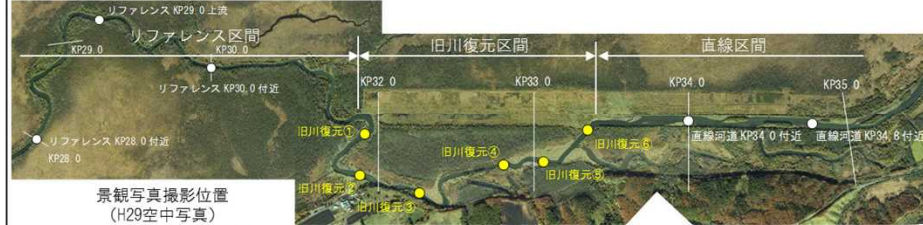
旧川復元前後の植生面積の変化

- 旧川復元後は地下水位や冠水頻度が上昇した。
- 湿原植生面積は、旧川復元前の約40haから約70haとなり、約30haが回復した。
- 回復には長い時間が必要であることから、今後もモニタリングを継続する。



③ 湿原景観の復元

- 旧川復元区間①～④は、景観を構成する主な要素となる「上空・河群林・裸地、水面」の割合がリファレンス区間と近いことから、リファレンス区間に類似した景観が復元している。
- 旧川復元区間上流部の⑤・⑥は、それぞれの要素の割合が直線河道に近く、現段階で目標達成に至っていない。景観復元には今後の河群林回復が必要であり、モニタリングを継続する。

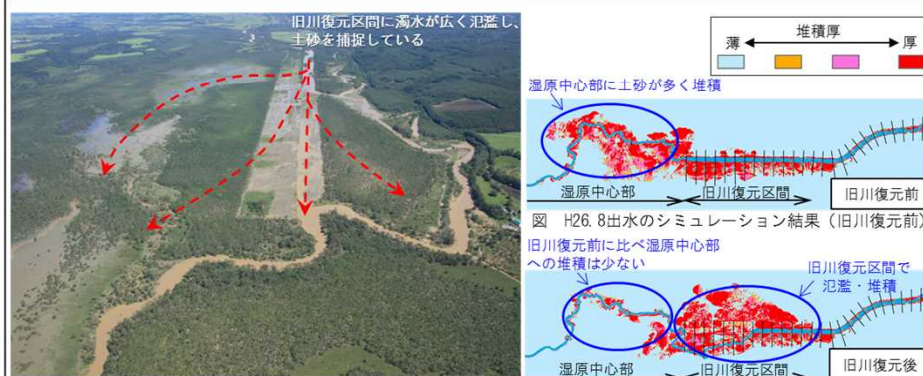


カヌー利用者の視点での景観 (直線区間KP34付近)

カヌー利用者の視点での景観 (旧川復元区間⑤)

④ 湿原中心部への土砂流出などの負荷軽減

- 事業実施により出水時に濁水が広範囲に氾濫し、湿原中心部に流入する土砂量を軽減している。
- シミュレーションにより旧川復元前後における湿原中心部土砂流入量の軽減効果を算定した結果、目標とした3割軽減を達成する効果を確認した。



H26.8出水の状況

H26.8出水のシミュレーション結果 (旧川復元後)

茅沼自然観察路が完成しました

場所：標茶町字コッタロ原野

茅沼自然観察路

細岡展望台

【拡大図】

埋め戻し
置線外道
茅沼
Kayanuma
憩の家かや沼
Amusement Park Kayanuma

細岡展望台から車で約30分
観察路L=540m(所要時間20分)

自然再生事業(茅沼地区旧川復元)が身近に見られます。
釧路湿原と釧路川を身近に散策できます。



～釧路湿原を守るための市民の取り組み～



川レンジャーの活動は、釧路湿原の良好な河川環境づくりに貢献するボランティア活動です。

すばらしい湿原のために

ほっかいどう しべちゃ こうとうがっこう

北海道標茶高等学校

標茶高校では、2002年から釧路湿原再生プロジェクトに取り組んでいます。

学内にはミニ河川が作られ、そこで湿原の植物を活用して水質浄化実験を行っています。



茅沼地区旧川復元事業の一環のヨシの移植作業



河川敷での清掃活動



釧路川の水生生物調査・水質調査



植樹の様子



釧路湿原自然再生事業の現場見学の様子



茅沼地区旧川復元事業の一環のネムロコウホネ(水生植物)移植作業



水質浄化実験の様子

アメリカで進む自然再生の取り組み



キシミー川(フロリダ州)

デンマーク ヨーロッパ最大規模の自然再生



- ・デンマーク スキヤーン川
- ・湿地の復元(2,200ha)



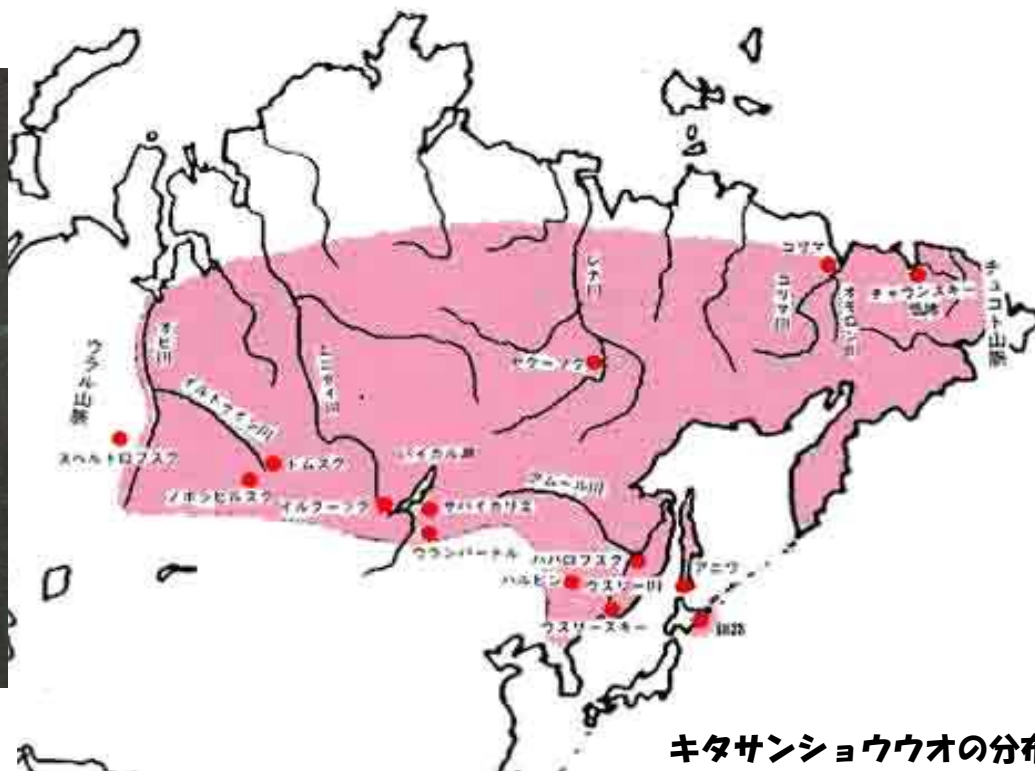
湿原とその周辺には野生の生き物がいっぱい



釧路湿原ならではの生物－キタサンショウウオ－



引用資料：佐藤孝則編・著「釧路湿原自然ガイド」



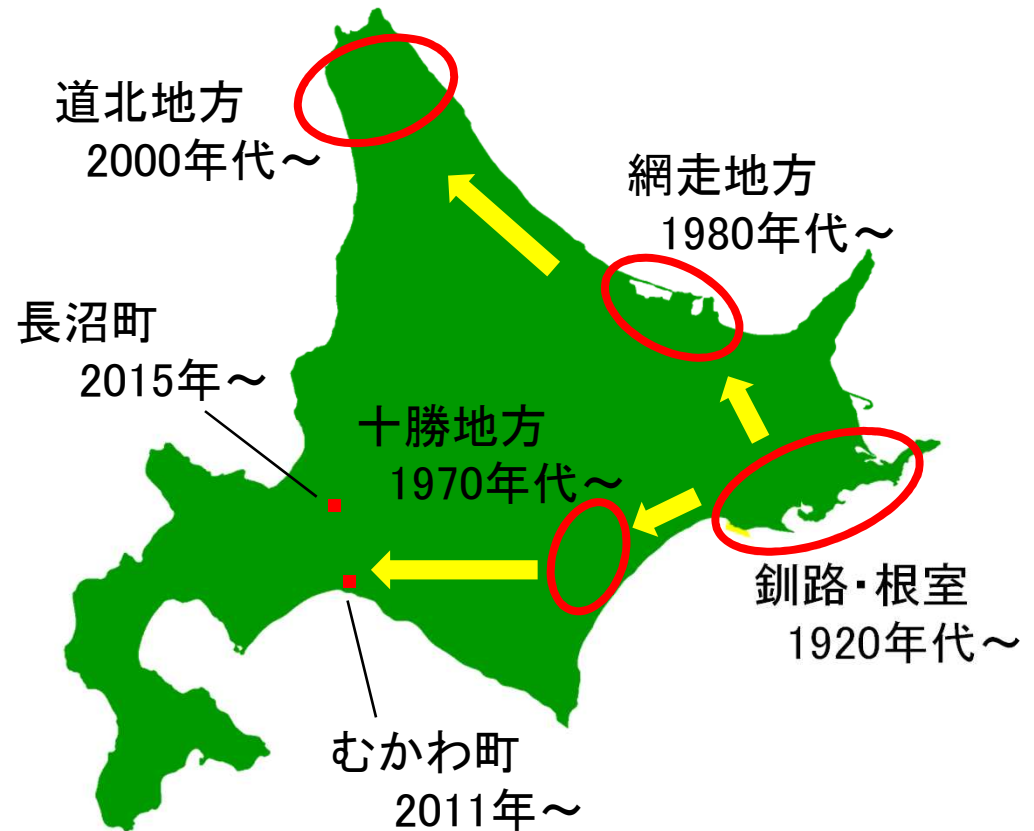
- ・大部分が釧路湿原で生息
- ・170～190万年前には大陸から北海道へ渡ってきたという説が有力である
- ・1954年(昭和29年)釧路市北斗で発見
- ・1975年(昭和50年)釧路市の天然記念物に指定
- ・1992年(平成4年)標茶町の天然記念物に指定

釧路湿原を代表する生き物ータンチョウー



- ・釧路湿原を中心に約1,800羽*
- ・1年を通し、湿原で生活
- ・夏場は湿原で子育て

* タンチョウ保護研究グループ会報
2024調査結果より



タンチョウの生息地の推移
『日本野鳥の会のおき野鳥の授業』より

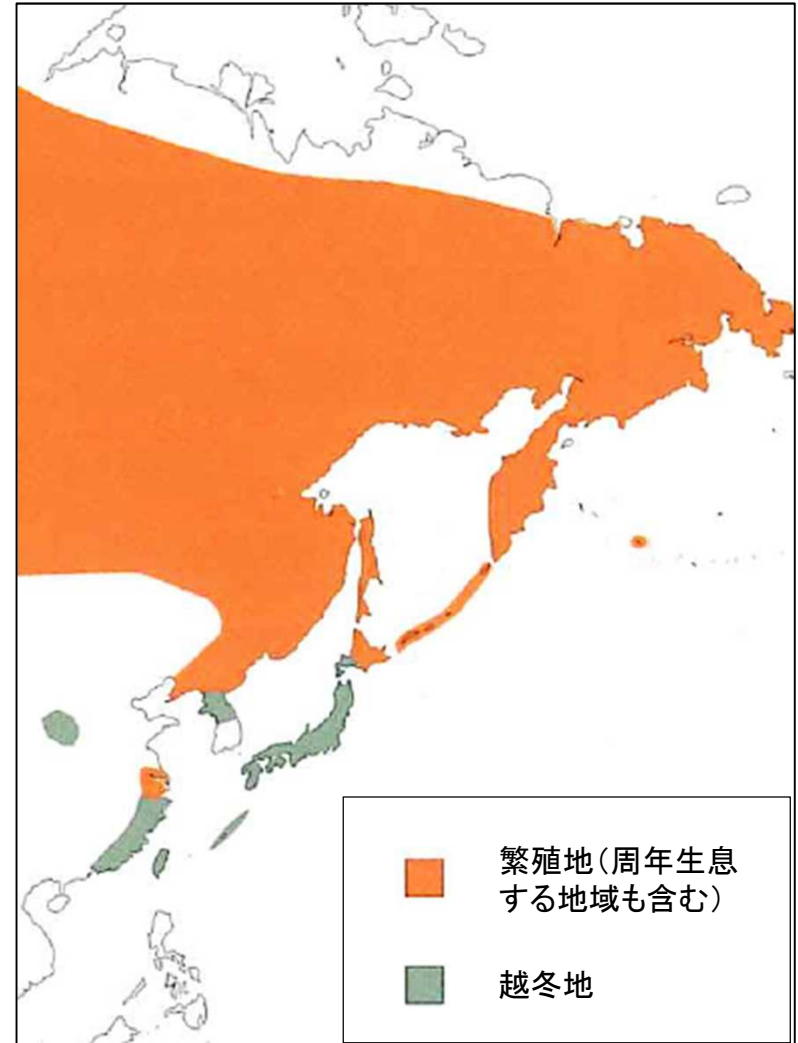
釧路湿原ならではの生き物－オジロワシー



- ・北海道に約170つがいが繁殖^{*1}
- ・繁殖つがい数は、近年増加傾向
- ・主に魚や水鳥を食べる
- ・水辺近くの大木に巣作り
- ・北日本で約700～1000羽が越冬^{*2}

*1 環境省(2010)

*2 オジロワシ・オオワシ合同調査グループおよび環境省(2010～2020)

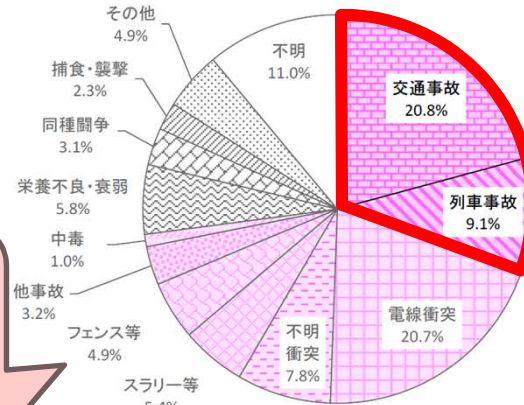


白木(1999)より抜粋

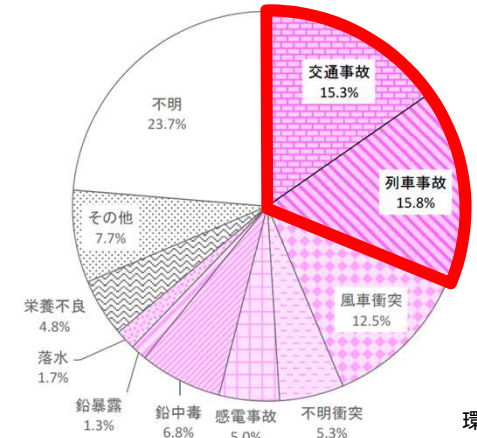
タンチョウ・オジロワシ保全のための取り組み

- ・車や列車との
衝突事故が問題に

負傷や病気で収容された
タンチョウ・オジロワシ
のうち**30%**は事故が原因



タンチョウ收容原因別割合（平成12-令和4年度）



環境省HPより

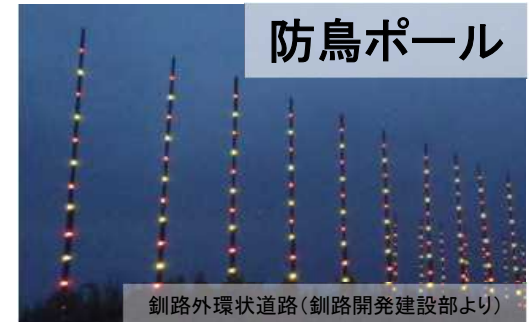
オジロワシ收容原因別割合（平成12-令和4年度）

衝突事故への対策

例：釧路外環状道路、
釧路新道、JR北海道

- ・橋に防鳥ポール、防鳥ワイヤーを設置
→川に飛来したタンチョウやワシが橋の上を
低く飛んだり、橋にとまるのを防ぐ
- ・シカ等の轢死体を早期に撤去、またはシートで覆う
→食べに来たワシとの事故（二次被害）を防ぐ

防鳥ポール



釧路外環状道路（釧路開発建設部より）

防鳥ワイヤー



釧路外環状道路（釧路開発建設部より）

釧路湿原のいきものシリーズ

キタサンショウウオ



キタサンショウウオの卵のう
「湿原のサファイア」

- ・ 国内では大部分が釧路湿原で生息
- ・ 2017年に上士幌町において卵のうを発見
- ・ 釧路市と標茶町の天然記念物に指定
- ・ 170～190万年前には大陸から北海道へ渡ってきたという説が有力

- ・ キタサンショウウオは4月から5月にかけて産卵
- ・ 産み落とされた直後の卵は美しい青色をしているため「湿原のサファイア」と呼ばれる

釧路湿原のいきものシリーズ

オオワシ

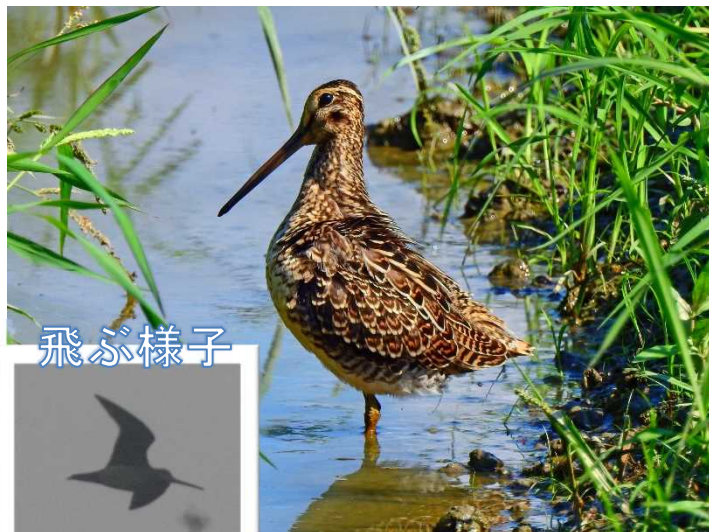
- 羽を広げると2.5mほどの大きさ
- 体の白と黒のパターンが遠くからでも目立ち、また、大きく鋭いくちばしも特徴的
- 釧路湿原では11月～翌4月ごろまで見ることができる
- 絶滅危惧Ⅱ類に指定



オジロワシ

- 羽を広げると2m前後の大きさ
- オオワシよりもやや小さく、体色も褐色となる
- 真っ白な尾が特徴的
- 釧路湿原では一年中見ることができる
- 絶滅危惧Ⅱ類に指定

釧路湿原のいきものシリーズ



飛ぶ様子



オオジシギ

- 大きさは30cmほどの渡り鳥
- オーストラリアより5月頃から渡来し、7月まで見ることができる
- 初夏の騒々しい鳴き声と羽音は非常に特徴的
- 2016年の研究結果により、約6000 kmをノンストップで飛ぶことが分かった

シマエナガ

- 大きさは14cmほど
- 本州に住むエナガの仲間であり、体が白っぽいのが特徴
- 冬の姿が有名だが、夏は羽の色が少し変わり、体も幾分スマートになる
- 林で一年中見ることができる



冬の姿



釧路湿原のいきものシリーズ

ヤチボウズ（谷地坊主）



釧路湿原では、こんもりとした坊主頭のような草のかたまりが並ぶ不思議な風景が見られます。

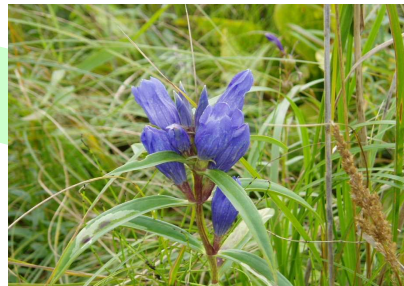
＜谷地坊主の由来＞

- ・ 谷地は湿原のこと
- ・ お坊さんの頭に似ていること

2つを合わせて谷地坊主

釧路湿原の花

8月～9月



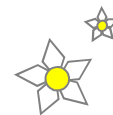
エゾリンドウ



ミヤマアキノキリンソウ



トモエソウ



ナガボノワレモコウ



タチギボウシ



エゾノコギリソウ



ツリガネニンジン



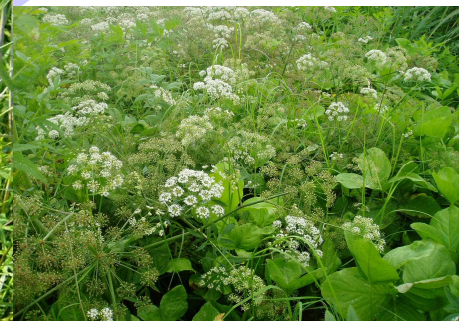
エゾノレンリソウ



ハンゴンソウ



サワギキョウ



ドクゼリ

釧路湿原の風景～初夏



氷河期からのこる湿原の植物



ミツガシワ

- 5月～7月にかけて咲く。温根内木道でも観察できる
- 花は白いがツボミは薄いピンク
- 浅い池や沼などの水辺に生える



クシロハナシロ

- 淡い青色の花をつける
- 6月～7月にかけて咲く
- 釧路湿原では限られたところだけで見られる



ハナタネツケバス

- 花の時期は6月中旬～8月
- 淡く赤紫がかった色のものもある
- 釧路湿原では限られた場所に咲くが、温根内木道で見ることができる